

令和3年度 東松島地域農業再生協議会 水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本地域は、仙台市の北東約40kmの距離にあり広域石巻圏の南西に位置し、全耕地面積が3,331haであり、そのうち水田面積が2,695ha（2020年度実績）となっている。基盤整備率は、東日本大震災の農地復旧と併せ実施する水田を含めると約68%（2019年度実績、20a以上区画）となることから、今後、土地利用型農業の生産性向上等を、より一層進めていく必要がある。

一方、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少がみられるが、農業生産法人等の組織は増加傾向にある。今後、担い手の確保及び取組みの支援並びに生産コストの低減及び付加価値の高い作物の生産による農業経営の安定化に努める必要がある。

また、麦及び大豆については、雑草、連作障害等による単収低下や年次による作付面積等の変動が顕著となっている。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本地域は、水田を利用した水稻を基幹作物とし、また都市近郊の立地条件や温暖な気候と長い日照時間を活かし、露地、施設野菜等の生産も盛んに行われ、特に、きゅうり、ねぎ、トマト、ほうれんそう、レタス、未成熟とうもろこし、いちご等は県下でも有数の産地に位置づけられている。さらに、集団転作地内での麦・大豆・飼料作物の生産もブロックローテーション（以下「BR」という。）や1年2作体系を取り入れ、安定的な生産体制が定着している。

今後、農業者の所得向上や水田農業の発展等を図るには、高収益作物の導入とともに、生産コストの低減、収益性・付加価値の向上、新たな市場・需要の開拓による収益力の強化が不可欠である。

生産コストの低減を図るために、低コスト生産技術及び多収品種の導入・普及を図る。

収益性・付加価値の向上を図るために、「水田農業高収益化推進計画 東松島市産地推進計画」を基に、子実用とうもろこし等の高収益作物への計画的な転換を図るとともに、JA等の実需者との複数年契約による安定的な生産・販売体制を推進する。

新たな市場・需要の開拓するため、国内需要に応じた生産・販売を推進するためJA等との実需者の連携を強化し、海外市場向けの新市場開拓用米の取組を支援する。

協議会を核として、JA、土地改良区、県農業改良普及センター等関係機関と一体となり、これらの取組を支援する。

また、本地域として、集団転作地内での麦・大豆・飼料作物とともに、重点振興品目としてねぎ、食用ばれいしょ、未成熟とうもろこし及びえだまめを位置づけ、畜産農家からの需要が高い飼料用米・WC S稲・子実用とうもろこしの導入・生産を重点的に支援する。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

主食用米の需要の減少傾向が続くことが想定される中、農地の排水性の改善や集積化に取り組むとともに、地域における効率的な土地利用にも配慮しながら、今後、畑地化の要望・計画があれば推進する必要がある。

また、本地域では、輪作体系等への労働生産性が高い子実用とうもろこし及び収益性の高い食用ばれいしょの作付面積が増加しており、産地化への支援とともに、農地の有効活用を図る支援も必要である。

水田利用状況を令和3年度中に確認調査を実施し、数年間畑作が継続している水田、水稻の作付実績のない水田を点検する。対応方針については、点検結果を踏まえたうえで、必要に応じて畑地化等の支援も検討していく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

主食用米については、需要に応じた作付面積の確保に努めることとする。なお、東日本大震災の被害を受けた水田の復旧事業は完了した。

(2) 備蓄米

主食用米に替わる主要な転作作物であるとともに、水田収益力強化作物として安定的に一定の規模を確保できることから、県別優先枠の全量作付を推進する。

(3) 非主食用米

主食用米の需要の減少が見込まれることから、主食用米に替わる水田収益力強化作物として、農業者が取り組みやすい米対応の転作作物である飼料用米、新市場開拓用米、WCS用稲及び加工用米の生産を需要に応じて推進する。

ア 飼料用米

産地交付金を活用し多収品種により単収向上を図るとともに、複数年契約や直播栽培等により低コスト化を図りながら推進する。

イ 米粉用米

取組み無し。

ウ 新市場開拓用米

主食用米の新たな販路拡大を目的として新市場開拓用米を推進するとともに、産地交付金を活用し取組面積の拡大を図る。

エ WCS用稲

畜産農家からの需要に応じた適正水準の作付けを推進する。

オ 加工用米

県内需要者や加工食品用の県外実需者との安定的な取引を推進し、需要量の維持及び確保を図るとともに、産地交付金を活用し複数年契約や低コスト化の取組みを支援する。

(4) 麦、大豆、飼料作物

麦及び大豆については、生産性の高い優良品種への転換、湿害を回避するための排水対策の実施、機械の導入による省力化及び機械化体系の構築、団地化等を推進する。

飼料作物については、団地化による低コスト生産の推進及び大豆の裏作として水田をフル活用することにより、農家の所得向上を図る。

また、高栄養価でありニーズも高いデントコーン、子実用とうもろこし等、実需に応じた飼料作物の生産を推進するとともに、畜産農家との耕畜連携の取組みを推進し、資源循環型農業の確立を目指す。

(5) そば、なたね

そばについては、麦、大豆、新規需要米等の作付けが困難な地域や従来より地域特産作物として実需者等との結びつきが強い地域における団地化による低コスト生産を推進し、拡大を目指す。

なたねについては、取組み無し。

(6) 高収益作物

野菜については、都市近郊の立地条件や温暖な気候と長い日照時間を活かし、露地、施設野菜ともに拡大し、契約栽培等安定取引の確立を図る。

特に、重点振興品目であるねぎ、食用ばれいしょ、未成熟とうもろこし及びえだまめについては、団地化による作業効率の向上及び高品質品種の作付けにより、特色ある産地づくりを目指すとともに、農家の所得増加を目指す。

5 作物ごとの作付予定面積等

| 作物等 | 前年度作付面積等 (ha) | 当年度の作付予定面積等 (ha) | 令和5年度の作付目標面積等 (ha) |
|------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 主食用米 | 1,877.7 | 1,828.0 | 1,818.0 |
| 備蓄米 | 106.0 | 110.0 | 115.0 |
| 飼料用米 | 4.9 | 5.0 | 7.0 |
| 米粉用米 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 新市場開拓用米 | 4.9 | 7.0 | 7.0 |
| WCS用稲 | 30.5 | 30.5 | 35.0 |
| 加工用米 | 0.0 | 30.0 | 31.0 |
| 麦 | 基幹作 78.4 二毛作 0.0 | 基幹作 78.1 二毛作 20.5 | 基幹作 80.0 二毛作 21.0 |
| 大豆 | 基幹作 379.4 二毛作 78.4 | 基幹作 431.5 二毛作 74.4 | 基幹作 432.0 二毛作 85.0 |
| 飼料作物 | 基幹作 79.1 二毛作 267.2 | 基幹作 80.3 二毛作 266.5 | 基幹作 82.0 二毛作 311.0 |
| ・子実用とうもろこし | 20.2 | 1.0 | 21.5 |
| そば | 基幹作 16.2 二毛作 29.6 | 基幹作 17.0 二毛作 46.9 | 基幹作 22.0 二毛作 47.0 |
| なたね | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 高収益作物 | 49.5 | 49.6 | 50.0 |
| ・野菜 | 34.5 | 37.2 | 37.8 |
| 食用ばれいしょ | 20.7 | 23.4 | 24.0 |
| ねぎ | 3.5 | 3.5 | 3.5 |
| 未成熟とうもろこし | 3.9 | 3.9 | 3.9 |
| いちご | 3.1 | 3.1 | 3.1 |
| きゅうり | 2.3 | 2.3 | 2.3 |
| えだまめ | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| トマト | 1.0 | 1.0 | 1.0 |
| キャベツ | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ・花き・花木 | 9.9 | 9.9 | 9.9 |
| ・果樹 | 5.1 | 5.1 | 5.1 |
| ・その他の高収益作物 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| その他 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ・その他 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 畑地化 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

6 課題解決に向けた取組及び目標

| 整理 番号 | 対象作物 | 使途名 | 目標 | 前年度（実績） | 目標値 |
|----------|----------------------|---------------------------|--|-------------------------------------|-------------------------------------|
| | | | | | |
| 1 | 飼料用米 （基幹作物） | 【国枠】飼料用米 の複数年契約助成 | 取組面積 取組経営体 | （令和2年度）4.9ha （令和2年度）1経営体 | （令和5年度）7.0ha （令和5年度）3経営体 |
| 2 | そば （基幹作物） | 【国枠】そば振興 助成 | 水田作での そば作付面積 | （令和2年度）16.2ha | （令和5年度）22.0ha |
| 3 | 新市場開拓用米 | 【国枠】新市場開 拓用米助成 | 取組面積 取組経営体 | （令和2年度）4.9ha （令和2年度）2経営体 | （令和5年度）7ha （令和5年度）3経営体 |
| 4 | 麦 （基幹作物） | 団地化による生産 性向上支援助成 | 取組面積 労働時間 | （令和2年度）70.3ha （令和2年度）3.7h/10a | （令和5年度）73.1ha （令和5年度）3.0h/10a |
| | 大豆 （基幹作物） | 団地化による生産 性向上支援助成 | 取組面積 労働時間 | （令和2年度）298.7ha （令和2年度）5.3h/10a | （令和5年度）307.5ha （令和5年度）5.0h/10a |
| | そば （基幹作物） | 団地化による生産 性向上支援助成 | 取組面積 労働時間 | （令和2年度）12.8ha （令和2年度）2.1h/10a | （令和5年度）16.5ha （令和5年度）1.7h/10a |
| | 食用ばれいしょ （基幹作物） | 団地化による生産 性向上支援助成 | 取組面積 労働時間 | （令和2年度）14.8ha （令和2年度）9.7h/10a | （令和5年度）15.9ha （令和5年度）9.4h/10a |
| | 飼料作物 （基幹作物） | 団地化による生産 性向上支援助成 | 取組面積 労働時間 | （令和2年度）61.6ha （令和2年度）10.5h/10a | （令和5年度）63.5ha （令和5年度）10.2h/10a |
| 5 | 大豆、そば、飼料 作物（二毛作） | 二毛作助成 | 二毛作の取組面積 対象作物の取組面積の うち二毛作の取組割合 | （令和2年度）375.2ha （令和2年度）61.9% | （令和5年度）430.0ha （令和5年度）80.0% |
| 6 | 飼料作物（基幹作 物、二毛作） | 耕畜連携助成（水 田放牧、資源循 環） | 飼料作物の耕畜連携助 成の取組面積 飼料作物の作付面積の うち耕畜連携助成への 取組割合 | （令和2年度）261.1ha （令和2年度）75.3% | （令和5年度）313.3ha （令和5年度）79.7% |
| | WCS用稲 （基幹作物） | 耕畜連携助成（資 源循環のみ） | WCS用稲の耕畜連携助 成の取組面積 WCS用稲の作付面積の うち耕畜連携助成への 取組割合 | （令和2年度）27.6ha （令和2年度）90.4% | （令和5年度）33.1ha （令和5年度）94.5% |
| 7 | 加工用米 | 高収益作物等拡大 助成 | 取組拡大純増面積 ※単年度目標。 | （令和2年度）0ha | （令和5年度）10.0ha |
| | 野菜 （基幹作物・二毛 作） | 高収益作物等拡大 助成 | 取組拡大純増面積 ※単年度目標。 | （令和2年度）5.2ha | （令和5年度）7.0ha |
| | 飼料作物 （基幹作物） | 高収益作物等拡大 助成 | 取組拡大純増面積 ※単年度目標。 | （令和2年度）11.1ha | （令和5年度）12.0ha |
| 8 | 新市場開拓用米 | 新市場開拓用米助 成 | 取組面積 取組経営体 （新市場開拓用米に取 組む全取組経営体） | （令和2年度）4ha （令和2年度）2経営体 （2経営体） | （令和5年度）7ha （令和5年度）3経営体 （3経営体） |